

中山間地域振興のための地域特産JAPANブランド花きの輸出拡大を目指す総合生産技術体系の確立

〔分野〕	野菜・花き
〔分類〕	実証研究型
〔研究代表機関〕	宮崎県総合農業試験場（地域特産花き輸出コンソーシアム）
〔参画研究機関〕	静岡県農林技術研究所、（研）農研機構野菜花き部門・中央農業研究センター、日本液炭（株）、（公社）宮崎県バイオテクノロジー種苗増殖センター
（普及担当機関）	宮崎県・西臼杵支庁（西臼杵農業改良普及センター）、JA高千穂地域、静岡県・東部農林事務所生産振興課、静岡県東部花き流通センター農業協同組合
〔研究・実証地区〕	（公社）宮崎県バイオテクノロジー種苗増殖センター、宮崎県西臼杵地域（高千穂町・日之影町・五ヶ瀬町）、静岡県東部地域（富士宮市、富士市、沼津市、三島市、伊豆の国市、伊豆市、下田市）

I 目指す地域戦略と研究の背景・課題

1. 地域戦略の概要

ランキュラスの主要ウイルスを育苗及び栽培初期に検出する手法の確立とウイルスフリー化苗の保護及び球根腐敗防止を含む健全生育技術を確立し、切り花を輸出する際の高濃度炭酸ガスくん蒸対策技術の評価する。マーガレットにおいては感染するウイルス等検定技術開発と鉢土を使用しない栽培技術開発、鮮度保持技術開発を実施する。

2. 研究の背景・課題

貿易自由化の流れの中で、国内農業への影響を緩和することと同時に、それをチャンスとして捉え、我が国の農業の強みを活かした農産物の輸出により、規模による競争では不利な中山間地域をはじめとする地域農業の振興を図る取組が重要となる。特に、地域独自に育成された品目について、戦略的に高品質化を図り、地域を支えるJAPANブランドとして確立し、海外の市場へ展開することが重要である。

II 研究の目標

地域特産花きであるランキュラスおよびマーガレットについて、宮崎県ではランキュラスの販売金額1億2千万円を平成33年には2億円にする産地戦略を踏まえ、また、静岡県ではマーガレットの販売額を順次拡大する産地戦略を踏まえ、両品目の生産・消費拡大のために輸出拡大を目指した技術の確立および普及を行い、販売額の1割増加を目指す。

III 研究計画の概要

1. 宮崎県におけるランキュラスの輸出に向けた無病苗の供給体制の確立とくん蒸技術の開発

- （1）主要ウイルスの解析と検出技術の開発・導入
発生しているウイルス種の解析とウイルス検出技術を開発する。
- （2）ウイルスフリー苗の育成
防虫ネット等でウイルス感染から保護した栽培下における健全苗育成技術を確立する。
- （3）球根腐敗対策
ウイルスフリー化球根の増殖時に発生する球根腐敗対策を開発する。
- （4）くん蒸処理時の花シミ対策
輸出時に殺虫対策で行う高濃度炭酸ガスくん蒸処理時に発生する花シミ対策を開発する。

2. 静岡県におけるマーガレット輸出に向けた栽培、鮮度保持方法の開発

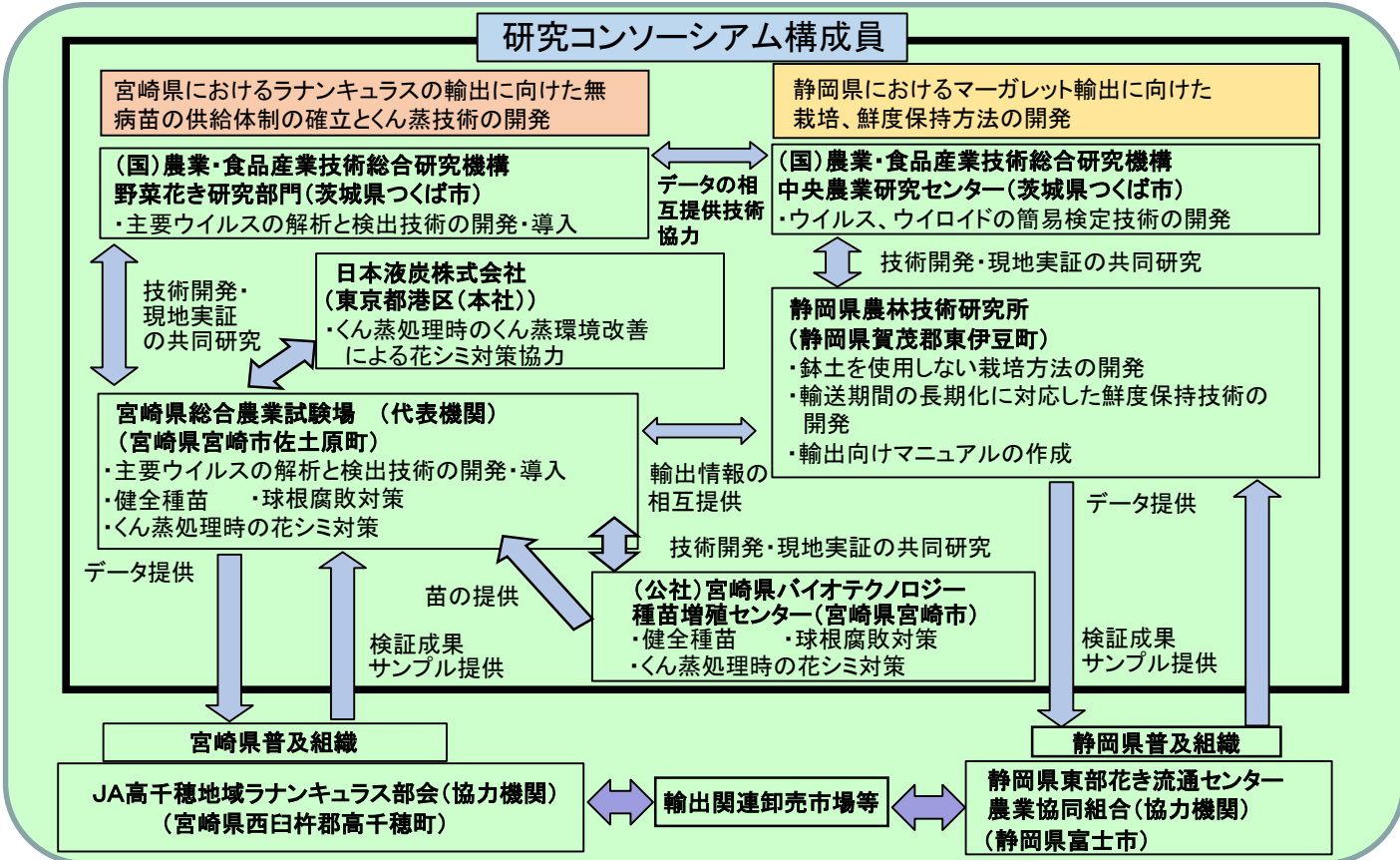
- （1）ウイルス、ウイロイドの簡易検定技術の開発
品質低下と輸出入検疫に影響を及ぼすウイルス・ウイロイドの特定と検定技術を開発する。
- （2）鉢土を使用しない栽培方法の開発
輸出に対応するための鉢土の代替資材を利用した栽培技術を開発する。
- （3）輸送期間の長期化に対応した鮮度保持技術の開発
輸出を想定した輸送期間の長期化に対応する鮮度保持技術を開発する。

3. 輸出のための生産・流通技術マニュアルの作成

ランキュラスとマーガレットの輸出対応マニュアルを作成する。

中山間地域振興のための地域特産JAPANブランド花きの輸出拡大を目指す 総合生産技術体系の確立

ランキュラスとマーガレットを輸出するためのウイルス・ウィロイド対策を核とした技術開発を行う。



1. 宮崎県におけるランキュラスの輸出に向けた無病苗の供給体制の確立とくん蒸技術の開発

(1) 主要ウイルスの解析と検出技術の開発・導入

表1. 現地栽培圃場ランキュラスおよび育苗及び生産地周辺の雑草のウイルス検定の進捗状況

採取地	圃場数	ランキュラス				雑草			
		内検定数	内陽性反応数			内検定数	内陽性反応数		
			RanMV	CMV	TSWV		RanMV	CMV	TSWV
A	1	—	—	—	—	1	1	0	0
B	2	11	11	8	0	7	0	0	0
C	3	35	35	27	0	15	0	0	0
D	1	—	—	—	—	12	3	0	0
E	2	21	21	9	0	13	0	0	0
F	1	109	57	34	0	17	5	2	0
G	12	202	0	0	0	65	13	2	0
H	10	120	111	77	0	24	2	0	0
I	1	21	0	0	0	3	0	0	0
合計	33	519	235	155	0	157	24	5	0

主要ウイルスを調査し、ウイルスフリー化するときの検定対象種を確定する。

(4) くん蒸処理時の花シミ対策

輸出時に行う高濃度炭酸ガスくん蒸時に花卉に発生する花シミの対策を確立する。

(2) ウイルスフリー苗の育成



ウイルス感染から保護する環境での適正栽培法を確立する。

(3) 球根腐敗対策



球根腐敗の原因と思われる菌を数菌株分離し、対策を確立する。



2. 静岡県におけるマーガレット輸出に向けた栽培、鮮度保持方法の開発

(1) ウイルス、ウィロイドの簡易検定技術の開発

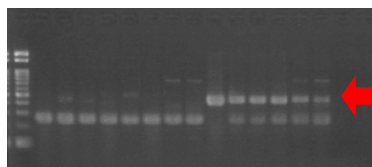
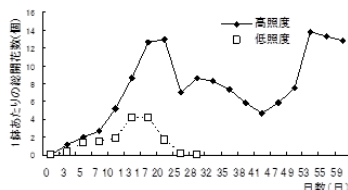


図 マーガレットから分離されたTSWVの泳動像
主要ウイルス・ウィロイドを調査し、診断法を確立する。

(2) 鉢土を使用しない栽培方法の開発

輸出に対応する鉢土の代替資材を選定し、対応した栽培法を開発する。

(3) 輸送期間の長期化に対応した鮮度保持技術の開発



輸出に対応できる長期間の鮮度保持技術を開発する。

図 照度の違いによる開花総数の推移

3. 輸出のための生産・流通技術マニュアルの作成

ランキュラスとマーガレットの輸出対応マニュアルの作成について平成29年度より着手する。